
ホットニュース(平成18年度／第106号)

●スーパーの買物配送サービス

1年間の育児休業後、昨年12月から職場復帰してきた新米ワーキングマザーです。仕事では環境・交通渋滞改善のために公共交通の利用促進を言っていますが、子供をもって実感したことは子供との移動、特に食材の買物には車が便利だということです。我が家の近くのスーパーまでは狭い道路が多く、荷物を持ってのベビーカーや自転車では不安があり、何より重くて大変です。今はもっぱら車を利用していますが、子供が8ヶ月頃まではチャイルドシートを嫌がり泣かれてばかりいたので、片手に荷物、片手でベビーカーを押しながら歩いていました。

最近仕事で、あるスーパーのヒアリングを行い買物配送サービスについて話を聞くことができました。指定された地域内(約2km圏内)で指定箱(70リットル・買物カゴ2つ分)、重さ20kgまで、配送料金は300～400円台、指定時間帯の対応があり、冷蔵品や冷凍品も配達してくれます。利用している人をあまり見たことがなかったので周知度が低いのかと思っていたのですが、地域によっては非常にニーズが高く、例えば鎌倉店は高齢者が多く、また坂道が多いために取扱量が最も多いとのこと。実際、サービスカウンター前で見ていると絶え間なく配達依頼のお客が来ていました。

しかし、お客からの利用料よりも配送業者への支払い料のほうが多く、赤字覚悟で企業サービスとしてやっているとのこと。そのためか他にも実施しているスーパーは多々ありますが、特定の店舗やお客(高齢者・障害者・妊産婦)、買物金額に応じて実施しているようです。最近インターネットショッピングで当日お届けをすところもでてきましたが、インターネットや生協などの宅配システムに頼ったことで、子供と外出することが面倒になり、ほとんど家から出なくなったという話も聞いています。

買物はリフレッシュにもなりますし、途中近くの公園に寄って子供を遊ばせたり友達とおしゃべりしたり、散歩するなど、健康増進やコミュニティ形成につながります。今後は商店街での共同配送サービスや、ベビーカーや怪我でカゴを持って店内を歩けない人へのお手伝い、インターネットでの事前在庫確認、店内の商品位置を表示するディスプレイ付きカートなど、イチ新米ママとして子供との買物が楽しくなるサービスを提案していきたいと思います。

(第一計画部 倉岡 明子)

●居住基盤づくり／暮らしを支援するNPO活動:東京都八王子市

東京都八王子市、多摩ニュータウンの南西部に長池公園がある。この長池公園の周辺住民たちが主体となり、地域にコミュニティをつくることを目的に「NPO法人FUSION長池」を設立し、地域住民の居住を支える活動を行っている。

○FUSION長池の設立

平成6年に多摩ニュータウン見附ヶ丘地区に長池公園せせらぎ通り北団地が完成した。この団地の管理組合の役員たちは、全てが新住民であるニュータウンの団地の中で、住民の間に温かい人間関係を築いていこうと考

え、コミュニティ専門委員会を設置した。

平成7年の地域情報誌「FUSION見附ヶ丘」の地域住民への配布をきっかけに、近隣団地との交流やイベントを開催する活動を行った。このような活動の積み重ねを経て、平成11年に多摩ニュータウン地域の住民の暮らしを支援する目的でNPO法人(特定非営利活動法人)「FUSION長池」が設立された。

○FUSION長池の活動

FUSION長池では、地域住民の居住を支える様々な活動を実施している。

■マンションの自主管理

団地と地域の事業者が連携して、分譲団地の自主管理ができるように支援を行っている。具体的には、団地の窓口や会計管理、修繕業者の目利きなどのコンサルティング業務を行うこととし、現在2つの団地と契約している。

■住まい造りの支援

専門家等からの協力を得て、コーポラティブ住宅の建設の支援を行っている。実際の建設業務は、地域の専門家が出資して設立した「有限会社夢見隊」で対応している。

■高度情報化支援事業

平成12年からベンチャー企業の協力を得て、団地内でADSLサービスを開始している。

■まちづくり情報誌「ぼんぼこかわら版」の発行

見附ヶ丘地区から始まった地域情報紙は、現在、まちづくり情報誌「ぼんぼこかわら版」に発展し、年4回発行・約1万世帯への配布を行っている。ボランティアが記事の執筆、編集、配布を行うことにより費用を軽減するとともに広告収入も増えたことから、平成14年からは黒字となっている。

■長池ネイチャーセンター管理運営

平成13年より八王子市から八王子市長池公園自然館(愛称:長池ネイチャーセンター)の管理・運営を受託している。様々な工夫により、月間平均来館数が約5千人と当初の予想を大幅に上回っている。

上記のほか、イベント開催、書籍の出版など幅広い活動を実施している。

○地域に根ざした運営

FUSION長池では、住民等からニュータウンの諸課題に関する事業の企画が持ち込まれた場合に活動を支援している。そのような支援を行うため事務局を設置し(常勤1名、非常勤8名)対応を行っている。

FUSION長池という活動団体ができたことで、暮らしを支える様々な事業が生まれた。この事例からは、居住を支える基盤としては、いわゆるハードだけではなく、住民自らが活動することが必要であること、FUSION長池のような活動団体が有効に機能することが把握できる。

(第二計画部 内山 征)

=====